

第4回米沢市地域公共交通活性化協議会 会議録（要点筆記）

1 日 時 令和3年3月26日（金） 13：30～14：30

2 場 所 置賜総合文化センター 203研修室

3 出席者（詳細別紙）

（委員）青柳秀夫委員、安部徹委員、今村元一委員、植野みどり委員、大河原真樹委員、河田亜依委員（オンライン出席）、黒須敬子委員、小林秀一委員、佐藤佳奈江委員（代理出席 伊藤雅良教務学生主査）、佐藤博昭委員（代理出席 加藤知美首席運輸企画専門官）、佐藤文俊委員、鈴木正幸委員、清野美喜男委員、高澤由美委員、手塚剛委員、成田未帆委員、山田記子委員

※欠席者：阿部進一委員、石山秀一委員、山口玲子委員、渡部克美委員

（オブザーバー）山形県みらい企画創造部 酒井達朗総合交通政策課長

（事務局）遠藤企画調整部長、神保高齢福祉課長、佐藤観光課長、吉田都市整備課長、総合政策課：森谷地域振興主幹、富取地域振興副主幹、相田地域振興主査、菊地主任、佐藤主任

（委託事業者）株式会社ケー・シー・エス 東北支社

石田グループマネージャー、伊藤技師（全員オンライン出席）

4 会議録

(1) 開会 司会：富取副主幹

(2) あいさつ 副市長

連日、新型コロナウイルス感染症のニュースばかり流れているが。来月からワクチン接種が始まる。数が少ない状況だ。順次対応していくので御安心いただき、ぜひ接種いただきたい。

一昨日、市職員の人事異動内示があった。今回のとりまとめをしている森谷地域振興主幹が4月1日から教育総務課長となる。そこに、佐藤明彦観光課長が地域振興課長として4月からとりまとめいただく。新旧の担当者の紹介に代えて挨拶とさせていただいた。

(3) 議事

規定に則り、大河原会長が議長になり、議事に入る。

地域公共交通計画の策定に向けた調査結果と課題の整理について

事務局及び委託事業者が資料1及び資料2により説明

委員等：資料2の図1だが。米沢駅前で4本路線があるが、利用者はどの路線に乗車しても税務署前に移動できるという理解でよいか。

事務局：お見込みのとおり。

委員等：逆にいうと、それは分かりやすいように表示されていないということだ。市街のある地点までは、どのバスを利用しても到着出来るが、そのこと

が分からずに日頃同じ路線を使っている人からすると、ずっと同じ路線を待っていると思う。そう考えると、この待ち時間は、実際にはもっとかかる。

もう一つだが、市外から来た人からすると、目的地までの移動手段を検索するサービスが無いということも言えると思う。手前味噌になるが、米沢市やKCSにも御協力いただき、その場その場で検索すれば、乗換検索の結果が表示されるようになるので、解消できる部分はあると思う。今後は、地元においてもそういう検索手段があるということをPRする必要があると思う。基盤は県全体で構築する。日頃は、皆さん路線検索をしないだろうし、使う機会がないと思うので、情報提供が必要となってくると思う。

もう一つある。資料2の図5で、夏冬で移動手段が変わっている結果がある。運輸支局に確認したいのだが、公共交通の補助は、通年運行の路線が対象であり、季節限定の路線は補助の対象外か。

委員等：季節運行でもフィーダー補助は対象に含まれる。

委員等：地域間幹線の場合、運行回数が3回／日以上という補助要件があるが、通年でならすので実質半分位になる問題があったかと思う。冬期間で短い路線であれば補助を狙うことを検討するのも有効かと思う。

また、資料2のP5の高速バスだが、主に村山地域であれば、仙台方面が多い。米沢 - 仙台線の利用者は大学生が多いのか確認したい。加えて、米沢市の場合、いくつか選択肢があるはずだ、山形市や福島市も目的地としてあると思うが、それでも仙台市へのニーズが強いのか、山形市や福島市へ移動する場合は奥羽本線しかなく移動手段が限られているため仙台市へ移動するのか、このあたりを今後の調査で明らかにできると、新規路線の導入検討や広域路線の見直しに活かせると思う。

もう一つ広域路線で気になる点は、川西町にある置賜総合病院の需要だ。米沢市においては、そこまで需要が出ていないのか確認したい。

事務局：まず、スマートフォンによる路線検索は、大変ありがたいシステムであり、最大限活用してもらえるように周知を図っていきたい。また、スマートフォンを使わない方への乗換案内が決して褒められるような環境になっていないので、バス停の表示をみて、次にどの路線に乗れば目的地へ移動出来るのかが理解しやすいかと思う。そういう点が今回の一連の作業の中で見えてきたので、スマートフォンによる路線検索と合わせて、改善に取り組んでいかなければならないと見えてきたところだ。

次に、季節別の利用だが、高校生の移動実態をみると、かなり極端に変わっている。特に、冬期間において自転車を使ってはいけないという点が大きい要因で、保護者の送迎が多く、結果的に大渋滞を引き起こしていると思うので、そういった点も含めて、公共交通が保護者の送迎に代わる移動手段になるという点は課題として見逃せないと思う。

次に、高速バスの利用の件だが、もっと深掘して実施していければと思っていた。

置賜総合病院の件は、様々な声をいただき、置賜総合病院へ通院のための路線が欲しいと要望を頂いているが、実態を明確に把握出来ていないのが正直な状況だ。今年度はコロナ禍の状況で調査が実施できなかったが、来年度できれば計画策定と合わせて補足して調査を実施し検討の材料としたいと思う。

委員等：委員のメンバーで大学生がいれば高速バスの需要を聞きたい。

委員等：高速バス米沢 - 仙台線をよく利用する。バス 1 本で仙台駅まで移動出来るからだ。山形大学付近に住んでいるが、米沢駅までが遠く感じる。山形市に行く場合は、最寄りバス停からバスで米沢駅へ行き、そこから山形市まで行くが、乗り換えと待ち時間の兼ね合いで億劫に感じている。仙台市へ移動する場合は、高速バスだと上杉神社前から乗車できるので、その点で良く使っている。もし、上杉神社前から山形市までのバスがあれば、私は利用すると思う。

委員等：奥羽本線で山形駅まで移動し、そこから高速バス山形 - 仙台線のバスを利用することが多い。本数が何本もあると時間を気にせず行動できるためだ。短大の周りに住んでいる方は、米沢駅まで近いと感じていると思う。米沢駅から山形駅へ移動し、山形市からの高速バスで仙台へ移動する場合が多い。

委員等：米沢 - 仙台線の補足だが、コロナ禍の中で、利用者数は全体として減っている。平日だと、ビジネス利用や仙台市への買い物利用が多い。週末にかけて、仙台市への買い物や遊びを目的とした利用が多くなる。今、委員から意見があったが、高速バス（米沢 - 仙台線）の運行本数は 6 往復（2 時間に 1 本）しかない。しかし、山形市まで移動すれば、平日だと 1 日 60 本運行しているので、利便性は米沢発より山形発の方が高い。また、運賃を比較すると、米沢 - 仙台線よりも、JR 奥羽本線を経由した山形 - 仙台線の合計運賃の方が若干安い。ただし、米沢 - 仙台線で回数券を購入すると、山形 - 仙台線よりも安くなる。

委員等：興譲館高校へ到着するバスだが、冬期は山交バスの御協力のもと、市外の電車を利用している生徒を対象に米沢駅から本校までの臨時バスを運行してもらっており、この路線を利用する生徒は多い。市内のバスである白布温泉線の本数が増えれば、学校前の渋滞解消につながる可能性があるため、ありがたい。ただ、本数を増やしても需要がどれだけあるかは不明。今時の高校生は、親や祖父母が送迎している場面も見られる。送迎の方が路線バスよりも安価で座って移動できる。増便に伴い利用者が増えるかは疑問。

委員等：資料 2 の P 4 の外部環境ということで、私は山上地区に住んでいる。郊外の移動手段だと、500 円ののりあいタクシーが運行している。通院

利用の流動図をみると、山上から市街地で56人利用されている。のりあいタクシーだと、500円で玄関前から目的地まで移動出来る点が非常に好評だ。今後も大いにPRしていきたい。

委員等：環境保全などへの意識の高い人は、自家用車よりも公共交通の利用を選ぶと思う。(米沢でも)環境面や健康面の影響(効果)の情報発信や意識づけができると公共交通への転換が期待できると思う。また、移住した人に米沢市の良さを聞くと、適度に町で自然が豊かなところという。その良さを守るために公共交通機関を選んだ米沢市、でイメージアップにつなげてほしい。

会長：今年、バス通勤をしているが、帰りにちょうど良いバスが運行していない。そこで、ちょっと早いバスに乗車し、途中のバス停で降車し、近くの場所でお酒を飲んで待っていると自宅に向かうちょうどよいバスが来る。1時間待つよりは、逆に1時間早めに出て、手間や不便さを楽しむ発想もいいかもしれない。帰りだからこそ出来る取組と思っている。

委員等：デマンド交通だが、山上地区のほかに田沢地区でも運行している。今、図10をみているが、山上地区と田沢地区では利用者数の違いがある。取組の違いは何かあるか。

事務局：のりあいタクシーの利用者数が地区によって開きがあるという意見だが、それぞれ地域公共交通としてデマンド交通を選択された地区ではある。しかし、まちなかに行く場合の利用目的によって、山上地区と利用頻度を比較すると利用者数に違いが出ている。今回、令和2年度の地域公共交通は全てそうだが、コロナの影響により乗合が敬遠されたので、数字の開きがより一層出たところもある。その中でも山上地区は、回復が早く利用者が平年並みに戻っている。その要因は、山上地区は、皆さんで育てて持続していきたいという想いが強いことがあると思う。地域公共交通としては非常にありがたいと思っている。

委員等：今後のまとめ方についてお聞きしたいのだが、調査により把握した要望の全てをかなえるのは非常に難しいと思う。なので、米沢市の地域公共交通として何を優先してやっていくのかを明確にして、そこに関連する調査結果を再分析すると良いかと思う。

加えて、オブザーバーからも米沢駅から税務署間の質問が挙がったが、米沢駅から税務署間はどの程度利用者がいるのかは分からない。例えば、上杉神社前や高校は利用者が多くいると思うが、税務署間はちょっとイメージが付かなかった。今後計画をまとめていく上ではペルソナを設定するように、利用者層と使い方を具体的に進めると、公共交通を使ってみる動きにつながっていくと思う。

本日、大学からこの会場に来るまでに公共交通を利用したが、45分早く着いた。その間に空いているスペースで仕事をしていた。例えば、南米沢駅では、椅子等があり、高校生が待っている。そういう待合環境

を整備し、他の楽しみ方を提供すると、利便性向上一辺倒だけではない施策も改善になるかと思う。

事務局：ご指摘の点は、その通りだと思う。まさに今ご指摘のあった今後どういう部分に取り組んでいくのか、という見えないポイントを見える化することが重要だと思う。来年度は、様々なデータの見える化をしていきたいと思う。米沢駅から税務署間のご指摘は、まさにその通りかと思うし、サンプルとして今回提示した。データはすべてのバス停があるので、乗降の多い部分を取り出して分析することは可能だ。駅を含めた交通拠点はどういう場所に整備するのかが重要だと思う。皆様からも乗り換えする場所がないというご意見をたくさんいただいたので、楽しく待ってもらおう仕掛けを作り、バスが来たから乗車するという拠点のあり方を検討し整備していければと考えている。

会長：他に質問がないようなので、本日の議事は終了する。

(4) その他

事務局から今後のスケジュールの説明。

その他、委員からの意見質問は次のとおり。

委員等：米沢市が地域公共交通計画を策定するという事で調査し、課題を多く抱えている状況と内容を委員の皆さんと共有できたというのが、一つの成果かと思う。次年度、議論していく中で、とりまとめが難しいところがあると思う。例えば、次年度以降にアドバイザーである吉田先生にご出席いただいて様々なアドバイスやご助言いただくのはどうかと思った。いかがか。

事務局：来年度以降も本市のアドバイザーとして継続して深く関わっていただく予定。本協議会や分科会等をはじめに、様々な場面で、また、皆さんから自由な意見を出してもらえるようにアドバイスをいただきたいと思います。

(5) 閉会

以上